

ステファノの殉教

使徒パウロが言うように、キリスト者にとって信仰は日々戦いであるが（エフェソ6:10? 12）、敵の攻撃が激しくなる時、聖霊もまた力強く動いて信じる者を倒れないように支えて下さると、これも聖書の教える真理である。主の使いは、主を恐れる者のまわりに陣をしいて彼らを助けられる」と詩編の記者が語っている通りである（詩編 34:7、口語訳）。

キリスト教会最初の殉教者となったステファノの神々（ごうごう）しい死に様は、彼と共にある聖霊の臨在を明らかに示す出来事であった。彼は、死に直面したまさにその時、怒り狂い歯ぎしりして押し迫って来る人々を見て、動ずることなく、静かに矢を見つめた。天にいまし、生と死をつかさどるお方が「神の右に立っておられる」のを見た（7:54? 56）。

天、そこには 私たちのために十字架を負われ、死に勝利された神の御子が立っておられる。この表現はユニークである。普通は、キリストは神の右に座しているお方として表されているが、ここでは「座している」のではなく「立っている」キリストがおられる。神の右とは神の主権的支配を表す。神的主権をもって支配しておられるメシアの姿である。そこに、死の恐怖を乗り越えさせるキリスト者の信仰の真髓がある。

使徒パウロは言う「あなた方はキリストと共によみがえらされ、今や新しい存在になったのであるから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右に座しておられるのである。あなた方は上にあるもの（すなわち天におけるキリストの主権者としての事実）を思うべきであって、地上のもの（すなわち地上に起る出来事）を思うべきではない」（コロサイ3:1? 3 意識）。地上のものを思うなどは、地上のものに対して無関心であれというのではなく、地上のものがすべてでもあるかのように、それに心を奪われて恐れてはならないという意味である。

困難であれ苦難であれ、地上のものの真の解決は、矢を見つめる」ことにある。ステファノはそこに生と死のまことの主権者が誰であるかを見た。それが、殉教の最中、死の恐怖を超越して、心の平安を彼に与え、また自分に石を投げつける者に対する愛の心を彼の中にもたらしたのである。

ルカはステファノ殉教の感動的な姿を次のように記している。「人々が石を投げつけている間、ステファノは主に呼びかけて、主イエスよ、わたしの霊をお受け下さい」と言った。それから、ひざまずいて、主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた」（7:59, 60）。

これは、主イエスが自分を十字架に釘付けする人々のために祈った祈りの言葉である (ルカ 22:23)。ステファノはこの主イエスキリストの祈りを祈り、またこの祈りに生きた神のしもべであった。